

二〇六 一 海湖の彎曲して陸地に入り込んだ所。倭名抄、「大川旁曲渚船隱風所也」と注す。遠江国。能因本・前田本「おほの浦」を「ふの浦」。「をふの浦」は伊勢国志摩郡。

三 陸前国宮城郡。
四 「怒りずま」を須磨にいいかけた語。撰津
五 紀伊国海草郡。 「国須磨」

二〇七 (一) 二 二 と同題。 ↓ 補注一七二
六 うへ木の森・岩瀬の森・立聞の森は(一) 二 二 に見える。参照。

七 山城国宇治郡。へ駿河国安倍郡。
九 岩代国西白河郡。 二〇 山城国乙訓郡。

二 伊賀国(八雲御抄)。「たれそ」は誰ぞ。
三 所在未詳。「くろべき」は糸織具の名。

三 未詳。諸本に異文がある。 ↓ 補注一七三
四 耳にとまるのは妙だ。

五 森とはいえそうになくただ一本の木なのを何によってそう名づけたのだろう。

二〇八 一 天壺坂寺。大和国高市郡南法華寺。
二 山城国笠置山。一六 山城国葛野郡。

七 京都東山正法寺という。 ↓ 補注一七四
八 お釈迦様の御住処であることが身にしみて感ぜられるのだ。

三 近江国滋賀郡。 三 紀伊国那賀郡。
三 近江国滋賀郡崇福寺をいう。 「注一七五

二〇九 一 法華経はいうまでもない。 ↓ 補
二 華嚴経の普賢行願品をいう。 ↓ 補注一七六
三 千手観音の徳を説く。 ↓ 補注一七七

天 随求陀羅尼経。 ↓ 補注一七八
六 金剛般若波羅蜜経をさすか。 ↓ 補注一七九
元 薬師琉璃光如来本願功德経をさすか。
三 七王般若波羅蜜経をさすか。

二一〇 一 観自在如意輪菩薩。 ↓ 補注一八

二〇六 浦は おほの浦。鹽竈の浦。こりずまの浦。名高の浦。

二〇七 森は うへ木の森。岩田の森。木枯の森。うたた寝の森。岩瀬の森。

大荒木の森。たれその森。くるべきの森。立聞の森。

よこたての森といふが耳にとまるこそあやしけれ。森などいふべくもあらず、ただ一木あるを、なにごとにつけむ。

二〇八 寺は 壺坂。笠置。法輪。靈山は、釋迦佛の御住みかなるがあはれるなるなり。石山。粉河。志賀。

二〇九 經は 法華経さらなり。普賢十願。千手經。隨求經。金剛般若。藥師經。仁王經の下卷。

二一〇 佛は 如意輪。千手。すべて六觀音。藥師佛。釋迦佛。彌勒。地藏。文殊。不動尊。普賢。



枕草子 紫式部日記

日本古典文学大系 19

昭和 33 年 9 月 5 日 第 1 刷 発行 ©

定価 650 円



校注者 池田 龜 鑑
岸上 山 儼 二
秋 山 虔 虔

発行者 東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3
岩波雄二郎

印刷者 東京都青梅市根ヶ布385
山田一雄

発行所 東京都千代田区 株式会社 岩波書店
神田一ツ橋2ノ3

落丁本・乱丁本はお取替いたします

日本古典文学大系
別巻 総索引
引換券

(枕草子 紫式部日記)



66-17

全66巻御購入の方に限り有効。完結次第この引換券を切りとり、御購入書店へお渡し下さい。総索引を贈呈。

岩波書店